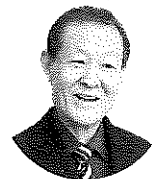


独学で日本語を学び、今、初級の教材に挑む二人。意欲とともにプレッシャーもあるだろう。

好きな言葉は？ 一期一会	何 も い や ー	一番大切なものは？ 家族
1週間休めたら？ 北海道へ釣りに		宝クジに当たったら？ すぐ取り乱します
いつかやりたいことは？ 海外で日本語を教える		今、幸せ？ はい、とても



アルファ国際学院での同僚。日本語学校の非常勤講師として、ビジネスマンを中心に教えている。

高田さんとは、週に3回はここでお会いします。同じ時間に来てても、違う学習者を受け持つわけですが、同じ人を曜日によって、高田さんと私で分けて受け持つということもよくあります。ですから、会うと、「あの、今こんな状態」とか「ここが苦手だからこうしたほうがいい」とかという話になります。情報交換がしっかりできるから、仕事がやりやすい。

ビジネスマンの経験が長い私から見ますと、高田さんはキャラクターが素晴らしい。教える技術は優れていても、人への対応が下手では教師としてはマイナスですが、高田さんは、学習者に、楽しくレッスンを受けられるという安心感を与えます。これ、教師として、一番大切なことですね。

文：浅野陽子 写真：市川法子

一人ひとりのための準備

高田さんは、企業に勤めていた頃、新人教育の仕事に携わった経験があります。「初めての人に接することに慣れたのは、そのおかげかもしれません。実は人見知りの性格ですから(笑)」と言いますが、その経験ばかりでなく、高田さんの優しい人柄が、学習者をリラックスさせているのがよくわかります。

家で授業の準備をするとき、高田さんは「あの人はこういう場で日本語を使うから、こんな会話を

練習させよう」「このニュースは、あの人にちょうどいい」と、常に学習者一人ひとりに合わせた準備をしていきます。だから、週四コマの授業とはいえ、準備は大変。しかし、その気持ちはちゃんと通じていて、学習者は高田さんに深い信頼を寄せています。

今、日本語教師という仕事と家庭を上手に両立させ、好きな茶道の勉強も続けている高田さん。「茶道から得たものを、いつか、外国の方たちに伝えるのが夢」なのだそう。

「今日はお昼に何を食べますか」「昨日は何を食べましたか」「何を食べていますか」。これまで学んできたことを整理する。



わが校のいち押し
日本語教師③



学習者一人ひとりと向き合って

地下鉄・虎ノ門駅から地上に出るとそびえたつ琴平タワービル。その三階。汐留のビルや東京湾が見渡せる部屋で、日本語のレッスンが行われている。ここには、日本語学校とは全く違う日本語教育の世界が広がっていた。

学習者との阿吽の呼吸

プライベートレッスンや、少数のグループレッスンを主流とするアルファ国際学院。広い教室内では、四組のレッスンが行われており、高田伸子さんは、男性二人と共にテーブルに着いていました。この二人は、韓国の企業から語学研修のために、三カ月という期限付きで派遣されてきた人たちだそうです。

「ちょうどテキストが一冊終わってるところなのですが、覚えることが増えてきて、彼らがかなり混乱している様子だったので、今日は

テキスト全体を振り返って整理しました。また、助詞が落ちる傾向が見られるので、今日は、ゆっくりはつきり、しつこいくらい丁寧に話すようにしました」と、高田さん。

仕事で日本語を学ぶ彼らのレッスンやを祭し、綿密にケアしてあげる。高田さんの親心のようなものが感じられます。

「この人が何を求めているのかわかると、阿吽の呼吸が生まれてくる。それが、プライベートレッスンの難しさであり、楽しさなんです」

アルファ国際学院

日本語教師養成科と外国人のための日本語科(ビジネスパーソン・大使館員・教育関係者、その家族などが多い)を設置する日本語教育専門学校。東京本校(虎ノ門)、紀尾井校、大阪校、ロンドン校、バンコク校、マニラ校などがある。
http://alpha.ac.jp/

高田伸子さん

大学卒業後、企業に約10年勤め、結婚のため退職。専業主婦の座に飽き足らず、3年ほどした頃から、アルファ国際学院の日本語教師養成講座に通いはじめる。受講中に日本語教育能力検定試験に合格。修了後は、同校で非常勤講師として日本語を教えるようになった。教師歴5年目。現在は、週3日、4つのクラスを担当している。